

部活動の地域展開と 「かみす地域クラブ」

～休日の活動機会を学校と地域で支える仕組みづくり～

1 はじめに

本市では、少子化の進行や学校部活動を取り巻く環境の変化を踏まえ、子供たちが将来にわたり、スポーツ・文化芸術活動に親しむことができる機会を確保するため、部活動の地域展開に取り組んでいます。

学校部活動は、これまで生徒の体力や技能の向上だけでなく、仲間との関係づくり、責任感や連帯感の育成、自己肯定感の向上など、多様な教育的意義を担ってきました。一方で、少子化による部員数の減少、種目による人数の偏り、教職員の休日対応や専門外指導の負担など、従来の学校単位の仕組みだけでは、活動を安定的に維持していくことが難しくなっています。

こうした状況の中、本市では、令和6年9月から、市内8校の市立中学校において、休日に活動する全ての部活動を原則として地域クラブ活動へ展開しました。これ

は、学校部活動を単に地域へ移すということではなく、子供たちの活動機会を守るため、学校と地域が役割を分担しながら、新しい活動環境を整えていく取組です。

その受け皿として設置したのが、「かみす地域クラブ」です。本稿では、かみす地域クラブの立ち上げまでの経緯、直営型と自主運営型を組み合わせた運営の仕組み、導入後の成果と今後の課題について紹介します。

2 本市が地域クラブ活動に取り組んだ背景

本市では、令和3年度以降、国の部活動改革の動向を踏まえながら、本市における地域クラブ活動の在り方を検討してきました。地域クラブ活動への展開にあたっては、生徒たちの活動機会を減らさないことを最も重視し、学校、保護者、地域団体、スポーツ関係団体等との意見交換を重ねながら、段階的に準備を進めてきました。

本市における基本的な考え方は、休日の活動を地域クラブ活動として整備しつつ、平日の学校部活動との連携・接続を図ることです。生徒たちにとっては、平日は学校部活動に参加し、休日は地域クラブ活動に参加するという選択肢が生まれます。また、学校とは別の種目や地域の団体が実施する活動に参加すること、平日のみの活動を希望することも可能となり、生徒一人一人が自分に合った活動の場を選ぶことができます。

一方で、地域クラブ活動を実際に立ち上げるためには、指導者の確保、活動場所の調整、保護者への説明、



【写真:「かみす地域クラブ」のうち、卓球の活動の様子】

参加費の徴収、保険加入、安全管理、学校施設の利用ルールなど、多くの実務を整理する必要がありました。そこで、本市では、推進委員会における協議を通じて関係者の意見を整理するとともに、事務局機能を担う委託事業者（スポーツデータバンク株式会社）と連携し、制度設計と運営準備を一体的に進めました。

特に、令和6年9月の開始に向けては、保護者向け説明動画や説明会、指導者募集、指導者研修、参加申込、保険加入、活動スケジュールの作成などを短期間で整理する必要がありました。こうした準備を通じて、令和6年9月から市内全中学校を対象に休日の地域クラブ活動を一斉に展開することができました。

3 かみす地域クラブの立ち上げと運営の仕組み

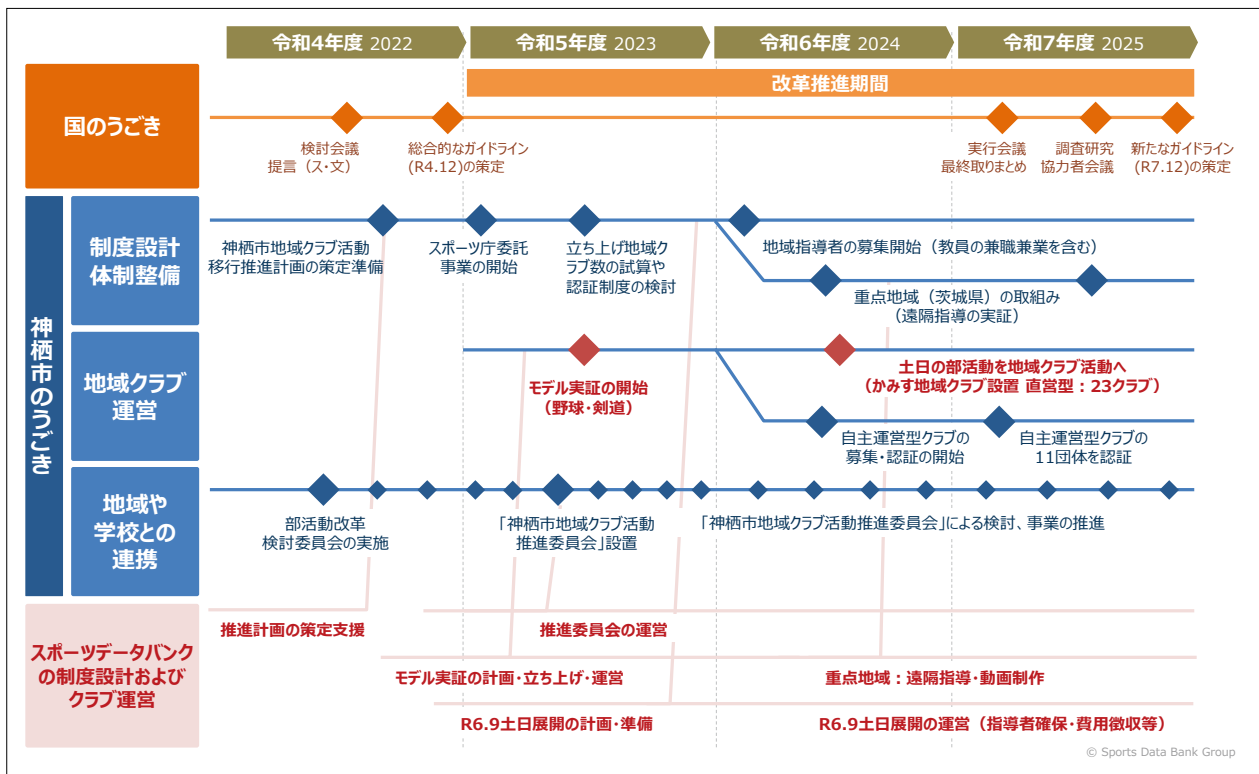
かみす地域クラブは、本市における地域クラブ活動の総称であり、大きく「直営型クラブ」と「自主運営型クラブ」

の二つで構成しています。

直営型クラブは、市が設置し、主に学校施設を活用して活動するクラブです。市内8校を4校ずつ2地区に分け、各種目のクラブを設置、拠点校方式で会場を調整する形式です。

学校部活動で行われている種目と連動しながら、軟式野球、サッカー、ソフトテニス、バレーボール、バスケットボール、卓球、吹奏楽、剣道、柔道の活動を実施しています。運営にあたっては、参加者募集、指導者配置、活動計画、保険加入、会費徴収、保護者連絡、安全管理、活動報告などを、事務局機能として委託事業者が中心となって管理しています。

一方、自主運営型クラブは、地域団体が主体となって運営し活動するクラブです。定められた条件のもとで認証し、クラブごとに活動場所、活動日、会費、指導体制を設定しながら、生徒たちの活動機会を支えています。令和7年度時点では、水泳、少林寺拳法、カヌー、陸上、バレーボール、サッカー、剣道、卓球、日本舞踊の活



【図:令和4年度から令和7年度までの本市の事業推進の経緯】

動を行う11団体を自主運営型クラブとして認証しています。

このように、かみす地域クラブでは、市が主体となって設置・運営する直営型クラブと、地域の団体が自らの特色を生かして活動する自主運営型クラブを組み合わせています。直営型クラブだけでは、すべての生徒たちのニーズに応えることは難しく、自主運営型クラブだけでは、地域展開の初期段階における安定した受け皿づくりが難しい面があります。両者を組み合わせることで、学校部活動からの円滑な接続と、地域資源を生かした多様な活動機会の確保を同時に目指しています。

また、事務局では、日々の活動を安定して進めるため、参加者・保護者対応、指導者登録、活動管理、安全管理、会計、実績把握、自主運営型クラブの認証管理などを整理し、令和7年度には運営マニュアルの作成にも取り組みました。これは、現在の運営を安定させるだけでなく、将来的に地域で持続的に運営していくための基盤づくりでもあります。

← 学校部活動 →	← かみす地域クラブ →	← その他の活動 →
A: 各校の部活動	B: 直営型クラブ	C: 自主運営型クラブ
学校ごとに設置された種目で、 平日に活動 している部活動	市が設置・運営し、主に 学校施設で、休日に活動 しているクラブ	一定の条件のもと、中学生の受け入れ団体として認証されたクラブ
<実施中の種目> 1. 軟式野球 2. サッカー 3. ソフトテニス 4. バレーボール 5. バスケットボール 6. 卓球 7. 吹奏楽 8. 剣道 9. 柔道 10. ほか	<実施中の種目> 1. 軟式野球 2. サッカー 3. ソフトテニス 4. バレーボール 5. バスケットボール 6. 卓球 7. 吹奏楽 8. 剣道 9. 柔道	<認証された団体> 1. 水泳 2. 少林寺拳法 3. カヌー 4. 剣道 5. 剣道 6. 陸上 7. 日本舞踊 8. 卓球 9. バレーボール 10. サッカー 11. 卓球
部活動（平日）と地域クラブ活動（休日）が連携・接続		

【図:部活動と地域クラブの全体像】

4 導入後の成果と、持続可能な運営に向けた課題

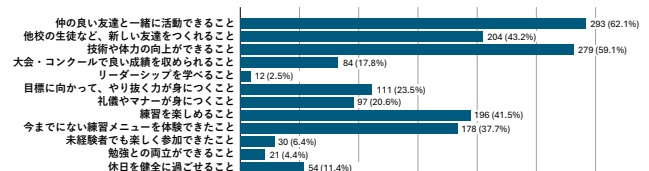
令和6年9月の開始以降、かみす地域クラブは、試行的な段階から実運営の段階へと進んできました。令和7年度は、通年で地域クラブ活動を運営した初めての年度であり、直営型クラブでは23クラブを設置し、令和7年度第4期時点で参加者227人、登録指導者76人が

活動しています。また、自主運営型クラブでは11団体を認証し、参加者153人、登録指導者33人が活動しています。

成果の一つは、市内全中学校を対象に、休日の活動機会を一斉に地域クラブ活動として接続できたことです。これにより、学校だけで休日の活動を支えるのではなく、地域の指導者や団体と連携しながら、生徒たちの活動を支える仕組みが形になりました。

もう一つの成果は、学校を越えた交流や、外部指導者との出会いが生まれたことです。生徒アンケートでは、地域クラブ活動に参加した理由や満足している点として、他校の生徒と交流できること、専門的な指導を受けられること、部活動では得られにくい細かな助言を受けられることなどが挙げられています。一方で、活動回数を増やしてほしい、大会や練習試合に参加したい、指導の質をさらに高めてほしいといった意見も見られます。こうした声は、地域クラブ活動が定着し始めているからこそ見えてきた課題でもあります。

かみす地域クラブの良いところ、満足しているところを教えてください（主なものを最大3つまで）
472件の回答



【グラフ:令和6年11月に実施した生徒向けアンケートの結果】

運営面では、指導者の確保、種目ごとの参加人数の偏り、地区間の活動場所の調整、学校施設の利用、参加費への理解、活動中の安全管理など、継続的な改善が必要です。特に、参加者が少ないクラブや指導者確保が難しいクラブでは、地区を越えた合同実施やクラブ統合、活動場所の見直しなど、種目ごとの実情に応じた運営改善が求められます。

また、直営型クラブは、委託事業者による運営事務局機能を通じて安定的に運営してきましたが、今後は、地域クラブ活動をより持続可能な仕組みにしていける必要があります。そのためには、直営型クラブから自主運営

型クラブへの段階的な移行、認証制度の整備、地域団体への支援、指導者研修の充実、寄附やふるさと納税等を活用した財源確保などを組み合わせて検討していくことが重要です。

5 おわりに

かみす地域クラブの取組は、完成された制度を一度に導入したものではありません。子供たちの活動機会を守るために、学校、保護者、地域団体、指導者、行政がそれぞれの立場から課題を出し合い、運営しながら改善を重ねてきた取組です。

国では令和8年度から令和13年度を改革実行期間とし、休日の部活動については、原則として地域展開の実現を目指す方向が示されています。本市においても、第2期推進計画の策定を進めながら、令和8年度から令和13年度までの改革実行期間を見据え、地域クラブ活動の制度と運営体制をさらに整えていきます。

今後は、直営型クラブの安定運営を続けながら、自主運営型クラブの認証制度をより分かりやすく整備し、地域団体が子供たちの活動の受け皿として参画しやすい環境をつくることが重要です。また、指導者の確保や研修、活動場所の確保、経済的な負担への配慮、寄附・

ふるさと納税等を活用した財源確保など、持続可能な仕組みづくりにも取り組んでいきます。

部活動の地域展開は、学校から地域へ活動を移すだけの取組ではありません。子供たちが安心してスポーツ・文化芸術活動が続けられるよう、学校と地域がともに支え、地域全体で子供たちの成長を見守る仕組みを育てていく取組です。

本市では、これからも「子供の活動機会を守る」ことを大切にしながら、学校と地域が連携し、子供たちにとってよりよい活動環境をつくっていきます。



【写真:「かみす地域クラブ」のうち、ソフトテニスの活動の様子】